川田市長と まちかど タウンミーティング

開催報告

開催概要

日時：令和6年8月21日（水）午後2時から3時
会場：山柴公民館　大会議室
参加者：18名
テーマ：まちづくり

タウンミーティングの流れ

① 開会
② 市長から説明　（開催の目的と概要、八幡市の現状と課題　等）
③ 参加者と市長との意見交換　（テーマについて意見交換）
④ 閉会

【意見交換の主な内容】

参加者

京阪石清水八幡宮駅前整備について、「駅から始まるまちづくり」をコンセプトに提案する。京阪石清水八幡宮駅は八幡市の玄関口である。
市役所旧庁舎の対応を焦らず、駅前整備を核としたまちづくりを進めてほしい。

市長

京阪石清水八幡宮駅前整備について、核となる拠点とするにはどのような機能を持たせるのか等を考えた上で、計画を着実に作っていく必要があると思います。
また、ご意見を頂戴する機会等を設けてまいります。

参加者

さくら近隣公園について、春だけでなく一年中憩いや安らぎが感じられる公園に整備してほしい。また、駐車場の拡張もお願いする。

市長

さくら近隣公園は、こども動物園や釣り堀、京都府で一番長い雲梯等があります。

民間の活力の導入など幅広い手法を含め、公園施設の充実にむけて考えていきたいと思います。

参加者

こもれびルートについて廃止されたのが残念。男山緑地景観保全事業で市が取得した土地を整備し散策路にしてはどうか。

また、市内の田を潰して物流倉庫を建てる事例が増えている。食糧自給率が下がっている昨今、市内での地産地消を考え、持続可能なまちづくりを進めてほしい。

参加者

コミュニティバスの路線を柔軟に変更できないか。またタクシー乗車の支援やバスの乗車運賃の補助等、高齢者が出かけたくなるような環境を整備してほしい。

使用していない公共施設について、健康づくりの観点から市民に開放してほしい。そして、生涯学習センターや市内図書館のトイレの設備が古い。計画的な改修工事を検討してほしい。

参加者

石清水八幡宮などに来る外国人観光客が増えていると感じる。

インバウンドに対してのアプローチ等を考えてほしい。

市長

こもれびルートについては、ルート周辺が私有地であり、一帯の山肌や崖などののり面全体の土砂や樹木に対し、管理に関して問題が発生してしまったことから、一旦市としてのルート指定を廃止した経過があります。男山緑地景観保全事業の土地は、現在、市民の方が安全に行き来ができる状況にありませんが、今後の活用について、散策路を含め検討してまいります。

市内には若手の農家さんもたくさんいます。八幡市の素晴らしい農業を維持するためにも、農業振興とのバランスを図ってまいります。

現在のコミュニティバスは、現在既存の路線バスを前提として路線や時刻表を組んでいます。

近年、路線バスの減便や路線廃止が相次いでおり、コミュニティバスのルートから再編をしないといけないと認識しており、現在作業を進めています。バスだけでなくデマンド交通等を含め検討を重ねてまいります。

旧八幡四小を含め、公共施設の活用も検討を進めてまいります。

観光のまちづくりについて、石清水八幡宮、さくらであい館等も含めた市内への動線を作っていけたらと考えています。

参加者

路線バスの本数が減り、最終便の時間が早くタクシーもない。そのため京阪石清水八幡宮駅前には迎えの自家用車がたくさんとまっている。コミュニティバスのルートを考えるときに働いている方の生活、家族の負担にならないことを考えてほしい。

また、同駅前整備で南側だけでなく北側等のエリアも含めた整備を考えてほしい。

参加者

八幡市の名前を大事にして欲しい。そして八幡のレガシーを大切にしていただきたい。

市長

京阪石清水八幡宮駅前のバスをはじめとする公共交通について、通勤通学の利便性確保は大前提です。

地域公共交通網の再編検討業務を行っていますが、年度途中での減便などもある状況で、随時減便等の状況を適宜反映させています。駅前整備にかかるエリア設定も考えてまいります。

また、八幡市の知名度や存在感を向上してまいりたいと考えております。